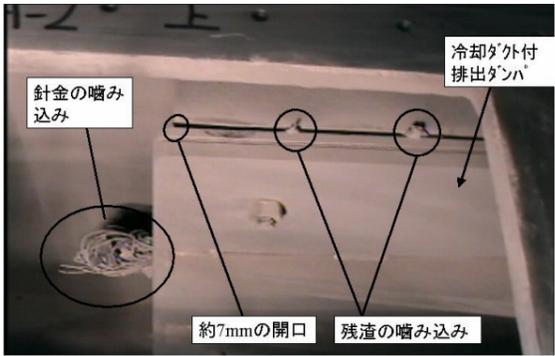


① 燃焼室とシールポットの間には、グラビティダンパ（スイング式逆止弁）が設置されている。
グラビティダンパは、燃焼室の圧力がシールポットでの水頭圧+200mmH₂Oで打ち勝つと開動作するが、今回動作していないことを確認した。

② 冷却ダクト付排出ダンパ上には、本ダンパの駆動軸側に偏って不燃物を含む焼却灰が堆積しており、開口側には灰の堆積は少なくダンパの地肌（ステンレス）が確認できた。

③ 冷却ダクト付ダンパのシート部に針金と残渣が挟まっているのが確認されたが、ダンパについては外観、動作に異常は認められなかった。排出ダンパに挟まっていた針金と残渣は、ダンパの開操作によって簡単に外れた。



④ 排出ダクトに取り付けられている覗き窓8枚の内1枚が破損し、各覗き窓のガラスには焼却灰が吹き付けられたように付着していた。



⑤ 排出ダクト圧力計（現場取付の指示計、測定範囲：-500～+200mmH₂O）の指針がオーバースケールの状態で固着していた。



⑥ 灰ふるい機、灰取出しダンパ、不燃残渣取出しダンパ上にも未燃物を含んだ焼却灰が堆積していた。

